

広島市長 松井 一實 様
広島市教育長 糸山 隆 様

湯来地域における小学校・中学校の在り方に係る提言書

日頃より、湯来地域の子どもたちのために御尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、湯来地域においては、他の中山間地域と同様に、急速な人口減少・少子高齢化に直面している中においても、地域住民が主体となり、自然や温泉、歴史、文化、こだわりの食材など豊富な地域資源を生かした地域の活性化に取り組んでいるところです。

現在、当検討会議とも連携しながら、隣接する戸山地域と湯来地域の一体的な活性化に向けた協議が進められてきており、本年3月には、「戸山地域・湯来地域活性化プラン」が策定され、地域の魅力を再確認し、地域活性化に向けた更なる取組が始まっています。同プランには、学校教育活動と地域活動との連携や学校施設の地域活動での活用を進めることなども盛り込まれています。

こうした中、湯来地域の各小学校・中学校では、児童生徒数の減少に伴い、子どもたちが多様な意見や価値観に触れ、相互に刺激し合い、切磋琢磨する機会が少なくなるなど教育面の課題が生じています。また、学校の校舎は、大部分が建築後50年を経過しており、老朽化による機能低下が進んでいます。

今後も少子化の進展が見込まれる中で、現状のままでは、更なる児童生徒数の減少や学校施設の機能低下等の進行によって適切な教育環境を維持できなくなり、いずれは湯来地域の全ての小学校・中学校が存続できなくなってしまう恐れがあります。

学校は、子どもたちに教育を提供する「教育機関」としての役割だけでなく、まちづくりの上でも、地域の活性化や地域住民の交流の拠点となる「地域コミュニティの核」としての役割を持っており、湯来地域にとって欠かせないものです。

このため、当検討会議では、未来を担う子どもたちの幸せと湯来地域全体の活性化につながるよう、将来にわたって湯来地域に小学校・中学校を存続させ、質の高い教育を提供し続けるとともに、地域活性化に向けた様々な取組を後押しし、地域住民による主体的なまちづくりを実現していくための学校の在り方について、議論を重ねてきました。

その結果、次に示す結論に至りましたので、当検討会議の総意として、提言いたします。

提 言 事 項

- 1 湯来地域の小学校3校（湯来東小、湯来西小、湯来南小）及び中学校2校（湯来中、砂谷中）を1校に統合し、湯来ならではの魅力的な小中一貫教育を行う学校を設置すること。
- 2 設置する学校は、異年齢の子どもたちの交流や9年間を見通して行われる授業、教職員配置の充実などにより、子どもたち一人一人の可能性を引き出す質の高い教育を行えるものにする事。
- 3 この学校では、学校運営協議会を活用するなど、学校、家庭、地域の様々な団体が密接に協働することにより、地域資源を生かした特色のある教育の実施を始めとする、学校教育とまちづくりを連携させた取組が行えるようにすること。
- 4 この学校の設置場所や施設の整備、学校までの距離が遠くなる子どもたちのためのスクールバスの導入など、学校統廃合に係る具体的な事項については、引き続き、地域と協議を行いながら検討を進めること。
- 5 この学校は、地域住民の日常的な交流・活動の場として活用できるようにするなど、地域コミュニティ活性化の拠点となるものにする事。
- 6 廃校となる学校の施設及び跡地の取扱いについては、地域住民による主体的なまちづくりを実現していくための場とするなど、その活用策を地域住民と協働して検討すること。

以上

令和4年9月2日

湯来地域における小学校・中学校の在り方検討会議

座長	光井 利成	(五日市商工会湯来地区振興委員会)
座長代理	平岡 忠	(杉並台連合町内会)
構成員	小田 稔	(水内地区町内会連合会)
	国広 博文	(上水内地区町内会連合会)
	佐藤 亮太	(上水内地区町内会連合会)
	釜賣 昭男	(砂谷地区町内会連合会)
	賀張 則明	(杉並台連合町内会)
	久保 宏輔	(湯来町観光協会)
	橋本 征俊	(湯来東小学校 PTA)
	西本 暁博	(湯来西小学校 PTA)
	阪本 裕二	(湯来南小学校 PTA)
	東 宏二	(湯来中学校 PTA)
	角前 沙織	(砂谷中学校 PTA)
	向井 久美子	(湯来保育園 保護者会)
	野崎 祐子	(湯来南保育園 保護者会)
	深水 南	(杉並台幼稚園 父母会)